

公益財団法人 中村元東方研究所  
東方学院

東方だより 第二十一号

【本部 (東京本校)】  
〒101-0021  
東京都千代田区外神田2-17-2  
延寿お茶の水ビル 4階  
TEL 03-3251-4081  
FAX 03-3251-4082  
URL <http://www.toho.or.jp>

理事長ご挨拶

「中村元記念館開館にあたって」

前田専學

二〇一二年一月一日、中村元先生のご命日に、私の長年の夢であった中村元記念館が、島根県松江市にある大根島の中央に開設され、開館式が盛大に行われた。霊峰大山を望むことが出来、波静かな中海に浮かび、中海圏域の臍にあたる大根島の「大根」は、偉大なる根本を意味し、中村元の元に通じ、宇宙の根本を意味するとすれば、この上ない格好の場所である。この中村元記念館には、先生が日頃使っておられた書斎、著書、直筆原稿、カード、遺品、日記などのほかに、先生が生涯かけて集め、利用し、先生の血となり肉となり魂ともなった全蔵書約三万余冊が収められていく。

この記念館の開設に劣らず重要なことは、松浦松江市長の熱意で、記念館の後ろにある小高い大塚山の頂上に、先生のいわば「遺言とも言つべき「慈しみ」のことは石碑が建てられ、その傍らに菩提樹が植樹されたことである。この事実は、私には、先生の熱い思いが先生の故郷の方々に温かく迎え入れられたことを象徴しているように思われる。多くの方々のご来館をお待ちしているが、記念館のみならず、この大塚山の記念碑と菩提樹を見なければ、中村元記念館を半分しか見たことにならないであろう。



今や中村元記念館は、松江のみならず、中海圏域の方々、島根・鳥取両県を結びつける象徴的存在になりつつあるばかりではなく、日印交流の象徴ともなり、まもなく発足する「山陰インド協会」の原動力となりつつある。IMF総会のために開館式に

出席できなかったワドワ・インド大使は、今年の一月二十一日には平井鳥取県知事を、二十二日には松浦松江市長と溝口島根県知事を訪問された後、中村元記念館を訪問された。大使は、特に中村元先生が、インディラ・ガーンディー首相や、ラーダークリシュナン大統領と一緒に写っている写真に感動されて、六月ころにはご主人と一緒に再訪されるということである。その大使が、次のようなメッセージ(原文は英語)を残された。

本号目次

理事長ご挨拶  
中村元記念館開設  
東方学院(松江校)講師紹介  
公益財団法人中村元東方研究所からのお知らせ

1 頁  
2 頁  
3 頁  
4 頁

「私は今、中村元記念館を訪問しています。私にとって記念すべきかつ非常に感動的な瞬間であります。私はこの記念館こそ日印の絆の要であると思います。日印の絆は単に歴史的であるばかりではなく、魂の絆であり、価値観の絆であり、宇宙とこの宇宙における人間の役割についての共通の見解の絆であります。私は、この記念館の実現のために献身された島根県と県民に感謝申し上げます。」

このようにワドワ・インド大使が「日印の絆の要である」ということを書き残された中村元記念館は、特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所によって運営される。本研究所を拠点として、生前中、中村先生が推進された東洋思想・文化の研究を促進し、将来は、中村元研究を志す国内外の学徒の聖地となるばかりではなく、東方学院松江校を設置し、地域の振興、文化の発展・人づくりに貢献することが出来ればと願っている。

東方学院は、「真に教えたい一人と真に学びたい一人が集まれば学院は成り立つ」という採算を度外視した中村先生の理念に基づき、現代の寺子屋として出発した。松江校も、この理念を継承し、この四月には、松江近辺と東京からの約二十名の「真に教えたい」との願いを持った講師にすでにお願ひしてあり、「真に学びたい」研究会員(受講生)を募集中であり、開校をまつばかりになっている。

さらに来る八月三十一日(土)と九月一日(日)には、中村元東方研究所は、ご生誕一〇〇年記念の一環として、中村元記念館東洋思想文化研究所との共催で、日本印度学仏教学会第六十四回学術大会を松江に招致する。六十年以上の歴史を持つこの学会で、かつて今まで、大学以外の、私どものような公益財団法人が学術大会の当番校となったことは一度もない。また来年には、まだ日程は未定であるが、ご生誕一〇〇年記念事業の掉尾を飾るものとして、比較思想学会の学術大会をも松江に招致することになっている。

昨年からは始まった中村元生誕一〇〇年の記念行事は、恙なく成功裡に進展しているが、これは偏に皆様方の力強いご支援と温かいご協力の賜であり、心から厚く御礼申し上げる次第である。



# 松江・八束 中村元記念館 開館 2012年10月10日



## 中村元記念館ホームページ開設

(<http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp>)

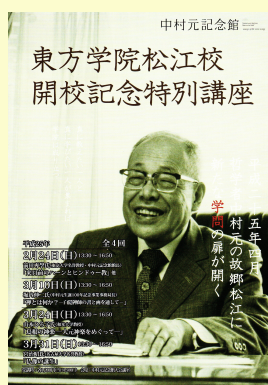


開館時間 10:00 ~ 18:00 (入館は17:30まで)  
休館日 月曜日、年末年始  
入館料 無料

連絡先 特定非営利活動法人 中村元記念館東洋思想文化研究所  
〒690-1040 島根県松江市八束町波入2060 松江市役所八束支所2階  
電話 0852-76-9593 FAX 0852-76-9693

島根県松江市八束町にインド哲学・仏教学者で名譽市民の故中村元博士(一九一〇—一九九九)が生誕一〇〇年を迎えることを記念し、昨年一月一〇日に、「中村元記念館」が市八束支所内に開館した。  
博士がご自宅(東京都杉並区)の書庫に所蔵されていた三万余冊の貴重な蔵書が収められている。蔵書のほかにも、直筆原稿、日記、愛用品、文化勲章賞状などが一般公開されている。  
博士の全蔵書は、昨年六月四日に、博士の長女・三木純子氏と次女・三好慈子氏より、博士の創設された公益財団法人中村元東方研究所(旧財団法人東方研究会)に寄贈された。そしてこの度、特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所(松江市役所八束支所二階)の要請により、中村元東方研究所から再寄贈されることとなった。

第一回(二月二十四日)は、三木純子・中村元記念館名誉館長による「父と私」と題する講演、的場裕子・日本女子体育大学名誉教授によるヴィーナ演奏に続き、前田専學・中村元記念館館長による「来日前のハーンとヒンドウ」教」と題する講義。  
第二回(三月一〇日)は、堀内伸二・東方学院講師による「禅とは何か?・白隠禅師の書と画を通して」と題する講義。  
第三回(三月二十四日)は、山本ひろ子・和光大学教授による「島根の神楽・大元神楽をめぐって」と題する講義。  
第四回(三月三十一日)は、宮治昭・名古屋大学名誉教授による「仏像の誕生」と題する講義。



一〇月一〇日当日は、溝口善兵衛・島根県知事、松浦正敬・松江市長、古瀬誠・中村元記念館審議会会長など地元の人々をはじめ、国内外から研究者や宗教関係者など約五〇〇余名が集まり、盛大な開館記念式典が挙行された。また式典では、三木総務から蔵書などの目録が贈呈された。さらに、近くの大塚山公園では記念碑除幕と記念植樹も行われた。  
記念館では、中村博士が設立した「東方学院」の松江校をこの四月から開校する。本校は、インド、中国、韓国、日本など東洋思想を学べる「知の拠点」として、注目を集めている。記念館は、中村元記念館東洋思想文化研究所(清水谷善圭理事長)が管理、運営にあたる。なお、それに先立って松江校開校記念特別講座(全4回)が開催され、いずれも盛況のうち閉幕した。その内容は、次のとおりである。



記念式典で挨拶する前田理事長



中村元記念館の門柱の除幕を見守る参列者(最前列左から、松浦松江市長、三木夫妻、清水谷・前田両理事長)



中村元記念館内の先生の書斎



# 「東方学院松江校開校を迎えて」

上野敬子（研究員）



した際、何をしているのか尋ねられ、中村博士の名前を出したところ、運転手さんは即座に「中村元！あの哲学者の？」と答えてくださいました。地元では、まさに「時の人」といった感じですよ。

東方学院松江校開校に先駆けて、二年前の二〇一一年四月より前田先生のご指示で、私は山陰中央新報文化センターで東方学院講師として講座を開かせていただいています。六か月の入門・初級講座を行ない、今日までに一年間の講座を修了された方は約三十名になりました。皆さん勉強熱心で、教室の中はいつも意欲溢れており、こんなことが勉強したい、あんなことをやってほしいと要望も次々に出てきます。皆、中村博士を尊敬する「ファン」で、博士の業績に感動し、ブツダの教えや様々な研究成果を学ぶことに喜びを感じている。共に「道を歩む」、「道の人」を志す仲間です。記念館の松江設立の話が持ち上がった以来、オープンを心待ちにし、一〇月二日の蔵書搬入の際には、急な提案にもかかわらず七人の方が本のお出迎えに来てくださいました。手伝いたいけど都合がつかなかったという方は、この限りではありません。

この四月より東方学院松江校が開校するにあたり、「いよいよスタートしますね。」と多くの方々から声をかけていただきます。中村元記念館が松江に設立されると決まった当初、松江名誉市民であるにもかかわらず、中村元博士の名前は、市民にはほとんど知られておりませんでした。しかしその後、山陰中央新報での連載や松江市の広報への度重なる掲載を始め、多くの方々のご協力を頂き、中村博士は今ではすっかり有名になりました。先日モタクシーを利用



「道の人」を志す仲間  
記念館にて蔵書のお出迎え

こうした方々は、中村元記念館にとっても中村元東方研究所にとっても宝物だと私は思っています。東方学院松江校の開校を通して、こうした仲間が今後ますます増えてくれることを願っています。

開校を前に二月二十四日には、東方学院松江校開校記念特別講座の第一回が開かれ、前田専学先生、三木純子先生、的場裕子先生がそれぞれ講演ならびにご演奏をなさいました。聴講者は百三十五名。記念館の講義室ではとても入りきれず、急きょ記念館の隣にある八束町公民館をお借りして開催しました。遠く大阪からおいでくださった方、当日偶然前を通りかかり、聴講してもよいですか？と来てくださった方、公民館の広い会場もいっぱいになり、用意していた東方研究所のパンフレットはすべてなくなり、大盛況のうちに閉幕しました。またこの日は、溝口島根県知事ご夫妻もプライベートでお越しくださいました。

松江にいて実感するのは、地元の人々の中村先生と東方研究所・東方学院に対する期待です。そして期待してくださる方々は、皆さん何かしらの願いや希望を、記念館・東方学院松江校に対して持つていらつしやいます。その方々の思いを理解し、その声に耳を傾け努力していくことが、今後、記念館ならびに東方学院松江校が発展していくためには、まず必要なのではないかと感じています。

冒頭に、中村博士はすっかり有名人で「時の人」であるとききました。一般には博士の名前は知っていても、では中村博士が「何をしたか」となると、まだまだ知らない人が多いようです。「記念館がオープンしたというだけで、内容が伝わってこない」とお叱りを受けたこともあり、輝かしい経歴や受賞歴、膨大な研究業績のすばらしさは勿論ですが、「中村ファン」になられる方々が魅かれています。やはり中村博士の果たされた「研究内容」や博士ご自身の「考え方」です。こうした博士の魅力をもっともっと多くの方々知っていただかなければと思います。魅力が十分伝わったなら、博士がいつまでも「時の人」であることは、私たちが確信するところではないでしょうか。



記念式典の参列者



中村元記念館の門柱の除幕を見守る参列者

# 会員参加へのお願い

# 公益財団法人中村元東方研究所からのお知らせ

当研究所では各種会員制度を設け、随時募集いたしております。会員には、機関誌『東方』をはじめとする各種情報の提供が受けられる普通会员と、当研究所への支援を主な目的とする賛助会員、ならびに維持会員がございます。

普通会员 年会費 7千円

普通会员の皆様には、毎年一回発行される機関誌『東方』の他、当研究所主催の各種行事および会合等に関するご案内をお送りいたしております。

賛助会員・維持会員 賛助会費 1口 1万円・維持会員 1口 5万円

当研究所では賛助会員ならびに維持会員を募集いたしております。当研究所の趣旨にご賛同頂ける皆様からのご協力をお待ちいたしております。なお、募金の趣旨をご理解の上、できうるかぎり複数口のお申し込みを賜りたく存じます。なお、当研究所は、内閣総理大臣から「公益財団法人」として認可を受けておりますので、ご寄付金額が2千円を超える場合には、その超えた金額が所得控除の対象となります。

\* 詳細は公益財団法人中村元東方研究所事務局までお問い合わせください。

## 公益財団法人の認定

この度、かねてより努めてまいりました公益財団法人の申請が、内閣府より平成24年6月27日付けで認可されました。これに伴い、7月2日付けをもちまして、従来の「財団法人東方研究会」より「公益財団法人中村元東方研究所」へと名称を変更することになりました。

これはひとえに皆様方のご支援ご指導のたまものと衷心よりお礼を申し上げます。

これを機に中村元博士の創設の原点に立ち戻り、生きた学問としての東洋思想の研究およびその成果の普及に、より一層精進してゆく所存でございます。今後とも温かいご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 公益財団法人 中村元東方研究所

理 事 長	前田 専 學
常 務 理 事	奈良 康 明
常務理事・事務局長	丸井 浩

(平成25年4月1日付)

## ホームページのご案内 ( <http://www.toho.or.jp> )

- ・当研究所の目的・理念・歩み
- ・中村元博士の略歴・業績・著作文献目録
- ・東方学院（開講科目、講師紹介、著書紹介）
- ・当研究所（研究成果、研究員紹介、著書紹介）
- ・公開講座、イベントのお知らせ
- ・リレーエッセイ
- ・チャットの広場
- ・パブリックリレーションズ 等



様々な情報が随時公開されていますので、是非ともご覧ください。

東方だより 第二十一号 (平成二十五年四月一日)  
 編集・発行 公益財団法人中村元東方研究所  
 【事務局】〒101-8302  
 千代田区外神田一十七丁目二丁目延寿お茶の水ビル四階  
 TEL 03-3511-4081